

前橋地域リハビリテーション 広域支援センター ニュース

Vol.28

2012.12 発行
TEL:027-253-5165
FAX:027-252-7575
e-mail: kouikishien@ronenbyo.or.jp
URL: <http://www.ronenbyo.or.jp/>
〒371-0847 群馬県前橋市大友町3-26-8
(公財) 老年病研究所附属病院内

「第5回 介護予防まつり in まえばし

～ピンシャン! 元気で明るいまちづくり」開催

平成24年12月2日(日)前橋市総合福祉会館にて、「第5回 介護予防まつり in まえばし」～ピンシャン! 元気で明るいまちづくり～が今年も開催されました。

当日は、山本龍前橋市長の開会宣言にて晴れやかに開会され、その後、前橋市消防音楽隊によるブラスバンド演奏が多目的ホールで行われました。その他には、「元気高齢者」がテーマの「まえばしシニア元気! 写真コンテスト」が開催され、数多くの写真の中から5つの入賞作品が発表されました。

今年は前橋市制120周年という節目の年であり、来場者の皆さんの力で一つの作品を作成するという記念作品づくりもありました。内容はクリスマスにちなんで、ツリーに願い事を書き、それを貼っていくというものでした。

インナースクエアでは、芳賀地区による「暮らしを拓げる10の筋力トレーニング」、南橋地区による「八木節音頭・遠野まぬけ節」、下川淵地区による「手話コーラス」、地域包括支援センターによる「認知症ってなに?」、群馬県鍼灸師会による「ツボ健康法」、前橋市介護高齢課による「ピンシャン! 元気体操」、そしてレクリエーション講演会として、群馬県レクリエーション協会の高橋良枝先生による「笑顔で楽しむ心とからだ」が行われました。会場に用意された席は、満席でとても好評でした。高橋先生はとてもユーモアのある方で、会場は常に笑いが絶えませんでした。また今回も、身体を動かしながらの参加型講演であったため、楽しくレクリエーションについて学ぶことが出来たのではないかと思います。

私達、前橋地域リハビリテーション広域支援センター(老年病研究所附属病院)のリハビリスタッフも当日2階のイベント会場で開催された「体力測定・健康チェック」のお手伝いをさせていただきました。当日は血管年齢、骨密度、握力、バランス力などの測定を行いました。来場された皆様も自身の健康状態を気軽にチェックできる良い機会になったのではないかと思います。加えて、1階展示会場では、「片手でできる活動」として、片手での料理の仕方について展示させていただきました。

今年も数多くの皆様に参加され、介護予防まつりの目的である、「市民に介護予防の必要性を普及、啓発する」、「前橋市介護予防サポーターの地域での活動を広く周知する」ことが多くの皆様にご理解頂けたのではないかと思います。



写真：写真コンテスト



写真：市制120周年記念作品

一般研修開催 「認知症のリハビリテーション -ケアとその接し方-」

講師：群馬医療福祉大学リハビリテーション学部
作業療法専攻専任教員 山口 智晴 氏

平成24年11月17日(土) 老年病研究所附属病院新館6階講堂で前橋地域リハビリテーション広域支援センター平成24年度一般研修を開催しました。今年度は、群馬医療福祉大学リハビリテーション学部作業療法専攻専任教員の山口智晴氏を迎え「認知症のリハビリテーション -ケアとその接し方-」と題しご講演いただきました。会場は70名を超え、椅子を追加準備する大盛況となりました。

講演の内容は、認知症の基礎と分類、最近取り組まれているリハビリの紹介、認知症者への対応についてお話がありました。実際の関わりでは問題となる認知機能だけではなく、その他の周辺症状や関係性に働きかけることから得られる反応などを前向きに効果的に捉えていくことの重要性などを改めて学ぶことが出来ました。



写真：研修会の様子

豆知識

今さら聞けない？

リハビリ用語 - 嚥下・言語聴覚障害編

成人の嚥下と言語、および聴覚の障害に関する用語解説の2回目です。今回は言語障害編として、失語症と構音障害について解説します。

2回目 言語障害編

①【失語症】：後天的な原因(例：脳梗塞、脳出血、頭部外傷)で脳が損傷を受け、病前は使っていた言葉がうまく使えない特徴を持つ症状のこと。言葉や文字を理解できなかつたり、言いたい言葉が言えなかつたりします。例えば、重症になると、「元気ですか？」という質問にも「はい」「いいえ」という返事ができない人もいます。字を書くことも難しくなります。ことばの意味と文字、そしてその音声(例：リンゴの絵と「りんご」という音声、そして『リンゴ』という文字)の記憶がバラバラな状態で、文字が読めても絵が分からない、わかっていても言葉が思い出せないといったことも起きます。中等度～重度の症状では、本人の意欲に関わらず、ジェスチャーや五十音表の指さし、筆談はだいたい上手いきません。ただし、個人差が大きいので、その人に合った有効なコミュニケーション方法については専門家にお尋ね下さい。

②【構音障害】：発音が不明瞭であったり、明らかに違う音で話をしてしまったりする特徴を持つ症状のこと。成人では、失語症と同様な病気・怪我で生じることが多いです。失語症と決定的に異なるのは、発音関係に問題が限定されていることです。つまり、聞く・見る・書くということは問題ありません(手や腕に麻痺がない場合)。したがって、ジェスチャー、筆談、五十音表の指さしなどは有効な場合もあります。

次回は、聴覚障害編として老人性難聴、補聴器について掲載予定です。



編集後記

寒さが厳しくなってきました。体調管理に気を付けて過ごしましょう。来年もよろしくお祈いします。 編集：品川